

神明公民館

「福祉に関して」

- ・ 2040 年問題を見据え、介護・医療・福祉人材の不足に対応するため、市民への現状周知や福祉教育を進め、地域の支え合いを強化すべき。
- ・ 居高齢者や地域活動に参加していない高齢者への見守り体制を充実させるとともに、ごみ出しや買い物など日常生活を支える支援の拡充を求める。
- ・ 民生委員の担い手不足や活動の負担、個人情報保護との両立など、地域福祉を支える仕組みの改善が必要。

「まちづくり」

- ・ 鯖江駅周辺は店舗が少なく、以前より活気がなくなっており、駅前の活性化が必要である。
- ・ 神明駅周辺も、以前に比べて商店やにぎわいが減っており、まちの魅力づくりが課題である。
- ・ 公共交通の利用状況や定期代の差などにより、駅利用者の流れが変化している。
- ・ 外国人住民と市民・学生が気軽に交流でき、困りごとを相談できる場が駅周辺にあるとよい。
- ・ 嚮陽会館の改修後は、施設だけでなく、運営を工夫し、活用しやすい拠点にしてほしい。
- ・ 地域のまちづくりに若い世代の参加が少なく、若者の視点を取り入れることが課題と感じている。

「観光・アクセシビリティにおける情報保障」

- ・ 字幕表示メガネの活用：字幕が見えるメガネが販売されており、イベントや会社見学（ボストンクラブ等）で体験・活用したい。
- ・ QR コードによる解説：恐竜博物館などの事例を参考に、メガネミュージアムや漆器会館において、QR コードを読み取ることで手話や多言語、字幕での解説が見られる仕組みの導入の提案。

「人口減少と子育て・教育環境」

- ・人口減少への懸念：鯖江市の人口が減少傾向にあり、将来的に5万人台になるとの予測に対する不安。
- ・学校の維持：河和田地区などで子どもの数が減っており、将来的な学校の統合や通学距離への心配。

「インフラとイベント時の課題（ハピライン・サンドーム）」

- ・駐車場不足とマナー：サンドームでのイベント時、ハピライン付近の駐車場が満車になり、周辺の道路での路上駐車が住民の問題となっている。
- ・民間・公的駐車場の活用：会社等の空き駐車場をアプリで貸し出す仕組みの活用の他、市が立体駐車場を経営して収益化するなどの対策はできないのか。

「防災に関して（情報保証、対策）」

- ・視覚的な情報伝達：サンドームや嚮陽会館などの公共施設において、災害時に音声だけでなく電光掲示板や回転灯（パトライト）で避難情報を伝える仕組みが必要である。
- ・アプリ・メールの活用：建物内にいる際に、スマホへ直接避難情報が届くような連携（QRコードや専用アプリ等）の検討が必要。
- ・防災では、避難所運営や個別避難計画、地域住民同士のつながりづくりなど、平時からの備えと地域防災力の向上が重要。能登半島地震の教訓も踏まえ、避難所運営や在宅避難を含めた実践的な防災対策を進める必要がある。
- ・災害発生時の避難所はどうなってるか神明地区民すべて非難するところはあるのか。
- ・広域避難なども考えているのか。
- ・西循環線にある井戸《融雪用》の有効活用できないのか。
- ・地域の情報伝達手段として結ネットやSNSの活用を進めるとともに、高齢者も利用しやすい情報発信の仕組みづくりを求める。

「行政・議会への要望」

- ・当事者参画のルール化：施設の建設やリフォームの際、完成後ではなく設計・計画段階から障害者等の当事者が意見を言える場を設けることを、努力義務やルールとして確立してほしい。
- ・議会放映の字幕：YouTubeには字幕があるが、ケーブルテレビの議会中継には字幕がないため、テレビでも字幕が見られるよう改善を求めたい。
- ・高齢者問題と少子化問題の予算のかけ方はどうなのか。
- ・役所や議員は高齢化対策などをどうするか考えていくのが議員の仕事だと思う。

「その他」

- ・3次路線の除雪が遅いのでそれなら融雪できないのか。
- ・水道料金安くならないか。
- ・神明（鳥羽三丁目）でもイノシシが出る、出没地域の市民への対策はどうなのか。